旧秩父宮杯が秩父宮スポーツ博物館へ寄贈されました

秩父宮殿下は昭和３年第一回全国大学高等学校スキー選手権大会に御来臨の折殿下の杯を当連盟に下賜され、以後秩父宮杯は総合優勝の学校に授けられておりました。戦時中金属供出に協力し当連盟は杯を返納し、杯は連盟から失われました。戦後、大会が復活してからしばらくは秩父宮杯なしに運営してまいりましたが、平成７年秩父宮妃殿下が秩父宮杯の復活と秩父宮妃杯の下賜をお許しなり現在に至っております。

平成１１年、宮内庁から、アメリカ人ジョージ・リンチ氏が、日本の皇族の紋章のついたカップをアメリカで発見したが、リンチ氏の日本における経験から、カップは皇族の下賜された杯ではないかと思われる。もしもそうであるなら元の持ち主に返したいという意思がある、との知らせがありました。旧秩父宮家宮務官山口峯生氏が慎重に調査した結果、この杯は戦前秩父宮殿下が学生スキー連盟に下賜された杯であることが判明しました。こうして一時は失われたと考えられていた杯が元の持ち主である全日本学生スキー連盟に帰ってきました。

またこれらのことが朝日新聞で報ぜられました。

当連盟はこの杯の処遇を検討しましたが、

① 連盟にはすでに秩父宮妃殿下のお許しになった秩父宮杯があること
② 帰ってきた杯は日米友好の証しとして意義深いものがあり、広く知られるべきものであること
③ 専門家からこの杯は現在の技術では作製することができない。すなわち工芸学史的にも貴重なものであるとの意見が寄せられたこと
④ 連盟内では毀損、盗難などの観点から保管の上で安全とは言えないこと

などの理由から当連盟理事会は、この杯は「旧秩父宮杯」名づけ、秩父宮スポーツ博物館に寄贈することが最善であると決しました。

しかしながら、寛仁親王殿下がこれをお知りになり、このようなことは学生にもっと浸透させる必要がある。よって少なくとも１０年は「旧秩父宮杯」を学生スキー連盟内で活用せよとのお言葉があり、当連盟はここ１０年間、この杯を全日本学生スキー選手権大会の男子一部リレーという種目の優勝チームに授与してきました。

約束の１０年が経過しましたので、昨年の１１月殿下をお訪ねし、当初よりの当連盟の希望であるところの、「旧秩父宮杯」を秩父宮スポーツ博物館へ寄贈したいとの考えを伝えましたところ、殿下は快くご承諾なされました。

当連盟は秩父宮スポーツ博物館に連絡を取り、杯の由来とともに杯を寄贈したい旨を伝えましたところ、博物館は喜んで受けたいとの返答がありました。

７月５日本連盟会長・副会長・理事長同道の上博物館へ出向き、当連盟会長栗田より独立行政法人日本スポーツ振興センター理事徳重氏へ渡されました。

数奇な運命をたどり日本に帰ってきた旧秩父宮杯は安住の場所を見出しました。現在は博物館の秩父宮殿下のコーナーに展示されています。なお秩父宮スポーツ博物館は千駄ヶ谷の国立競技場の中にあります。